

# 京都府漁海況情報

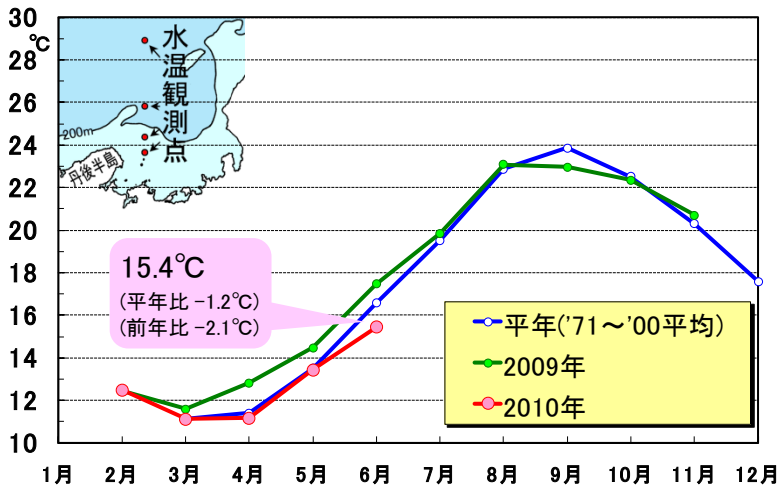
京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話:0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

## 海の状況

### 【現況】

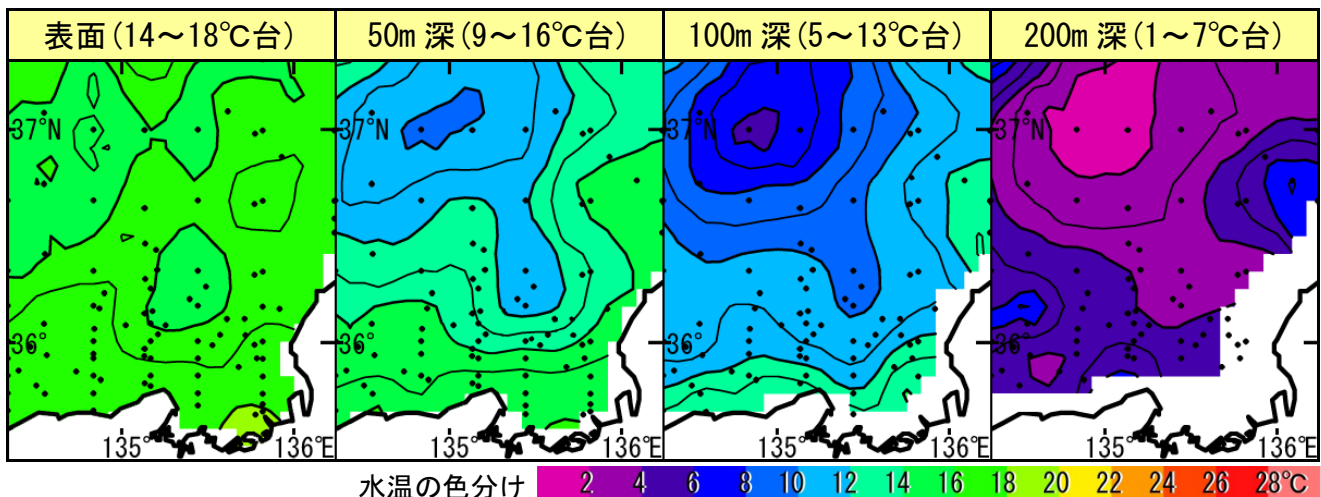
6 月上旬における京都府周辺の表層水温は、平年より低めで推移していました。また、沖合からの冷水域は前月よりも張り出し気味でした。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2010年6月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



### 【今後の見込み】

資料元：(独)日本海区水産研究所, 気象庁, 九州大学応用力学研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年並みか平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し※	「平年並み」で推移する見込み

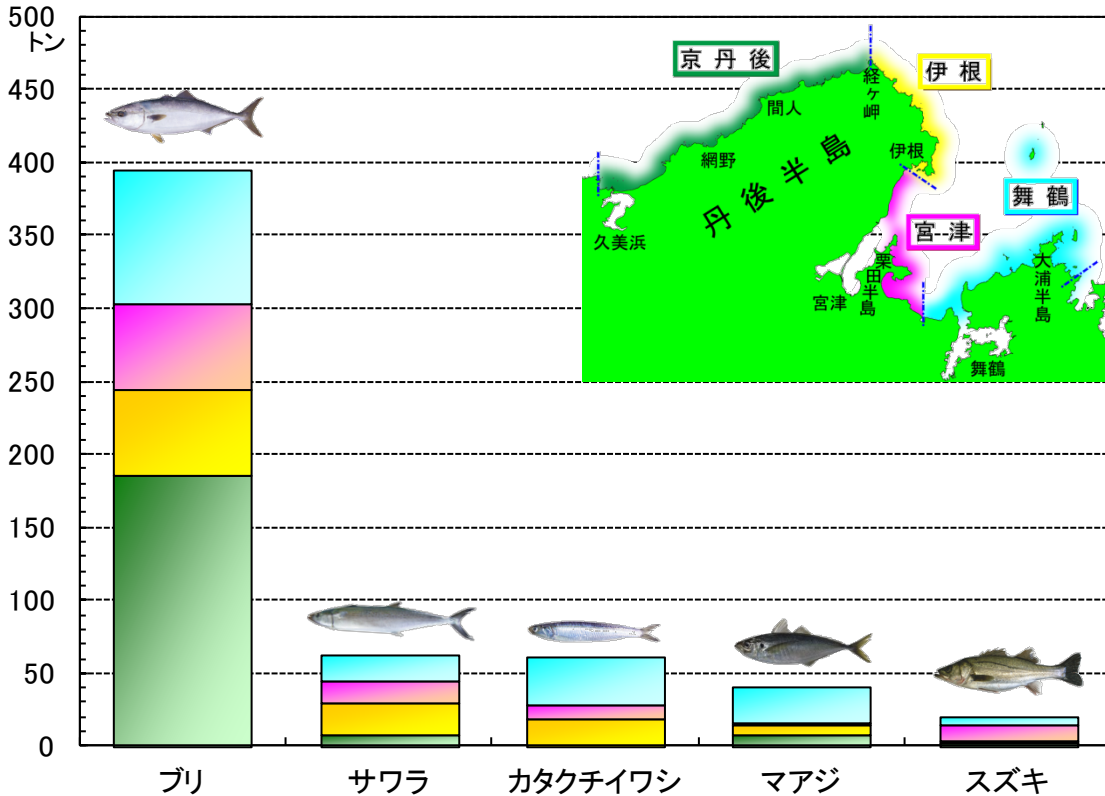
※冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすいと考えられています

# 漁模様 ～2010年5月～

## 【定置網漁業】

カタクチイワシとマアジが少漁だったため、全体では平年および前年の5月と比べて6割前後の水揚げにとどまりました。

2010年5月の地域別漁獲量(上位5魚種)



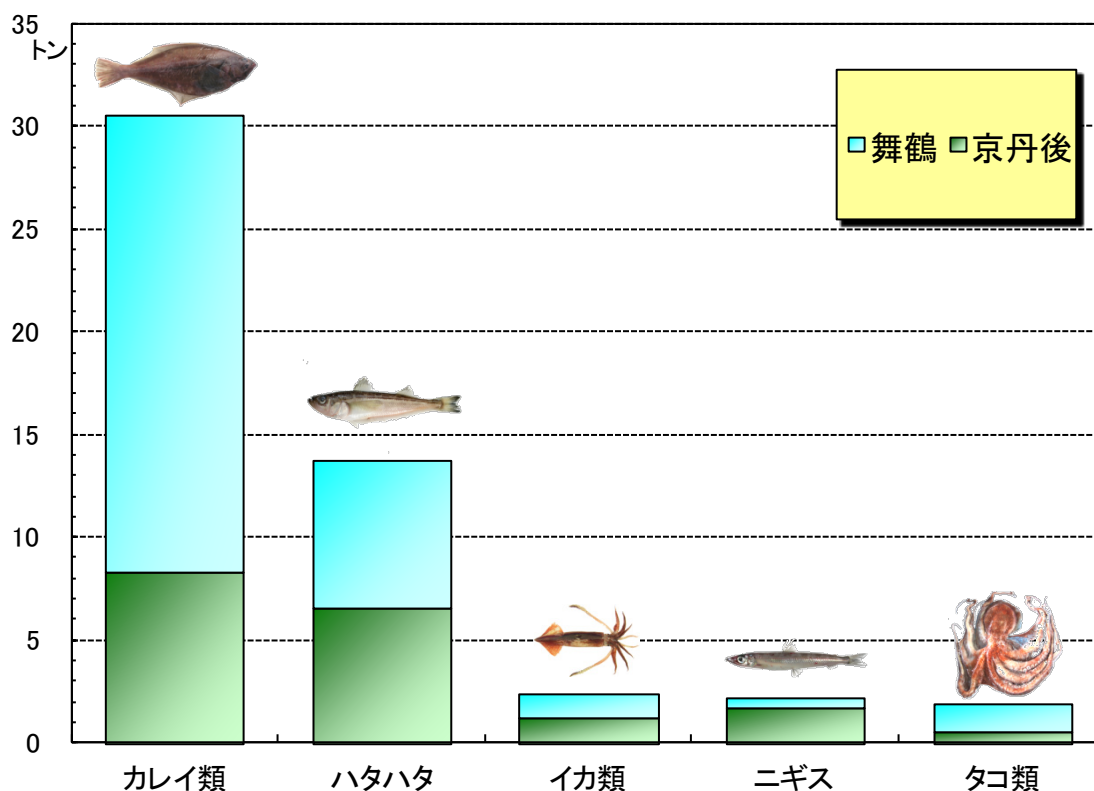
5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考	
ブリ	394.4	288.3 (137%)	177.1 (223%)	<カタクチイワシ>	
サワラ	62.6	46.1 (136%)	42.4 (148%)	体長4~14cm台で、主体は6~8cm台および11~14cm台でした。	
カタクチイワシ(たれ)	62.0	540.0 (11%)	331.1 (19%)	<サワラ>	
マアジ	41.1	117.1 (35%)	322.9 (13%)	さごし銘柄(尾さ長40~50cm主体)が6割強、それより大きなさわら銘柄(尾さ長60cm台主体)が4割弱でした。	
スズキ	20.6	21.4 (97%)	7.9 (262%)	<ブリ>	
イカ類	8.0	4.5 (177%)	34.1 (24%)	つばす銘柄(尾さ長35~40cm級主体)が8割弱、ぶり銘柄が1割強、はまち銘柄とまるご銘柄が合わせて1割でした。	
タイ類	7.0	3.4 (208%)	9.6 (73%)		
マグロ類	6.1	16.2 (37%)	6.5 (93%)		
サバ類	5.5	9.2 (60%)	24.5 (22%)		
トビウオ類	5.4	9.8 (55%)	7.6 (71%)		
その他	37.0	75.2 (49%)	75.5 (49%)		
合計	649.8	1131.2 (57%)	1039.0 (63%)		

平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

全体では前年の約 1.1 倍、平年の 8 割弱の水揚げでした。

2010 年 5 月の漁獲量(上位 5 魚種)

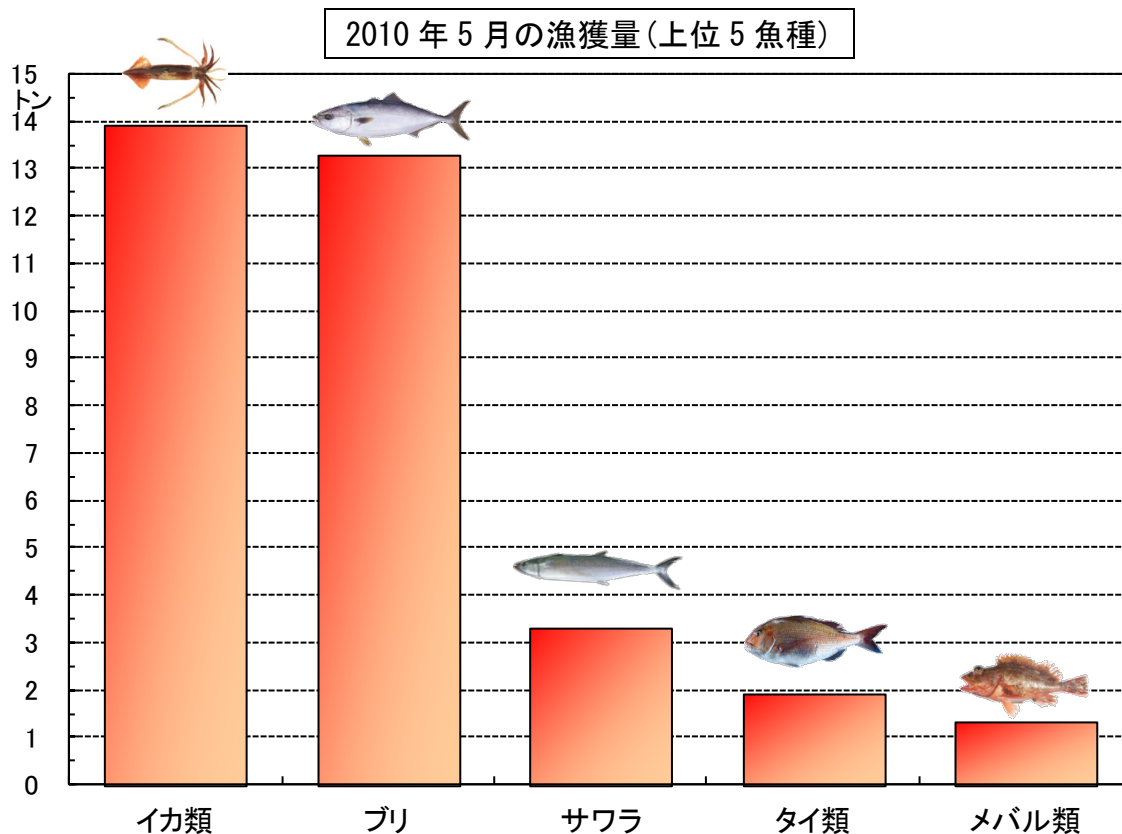


5 月漁獲量(トン) 京都府漁連集計				
魚 種	2010 年	2009 年(前年比)	平年(平年比)	備 考
カレイ類	30.5	35.0 (87%)	35.6 (86%)	<カレイ類> アカガレイ(まがれい)が 18.6 トン、ソウハチ(えてがれい)が 6.2トン、ヤナギムシガレイ(ささ がれい)が 2.9トン、ヒレグロ(黒 かれい)が 1.9トンなどでした。
ハタハタ	13.7	4.8 (288%)	19.4 (71%)	
イカ類	2.4	1.9 (124%)	3.1 (76%)	
ニギス(沖ぎす)	2.2	3.6 (60%)	4.7 (46%)	
タコ類	1.9	2.0 (96%)	4.1 (47%)	
貝類	1.0	1.0 (99%)	1.1 (94%)	
エビ類	0.9	1.1 (80%)	0.8 (108%)	
メバル類	0.6	0.4 (150%)	0.3 (173%)	
ヒラメ	0.4	0.3 (169%)	0.4 (115%)	
タイ類	0.4	0.4 (111%)	0.7 (56%)	
その他	8.1	6.5 (124%)	9.3 (87%)	
合計	62.1	56.9 (109%)	79.5 (78%)	

平年は過去 10 年平均

## 【釣り・はえなわ漁業】

全体では前年および平年の約7割の水揚げでした。



5月漁獲量(トン) 京都府漁連集計					
魚種	2010年	2009年(前年比)	平年(平年比)	備考	
イカ類	13.9	12.0 (116%)	20.1 (69%)	<ブリ> ぶり銘柄が3割弱, まるご銘柄が3割, はまち銘柄が4割強, つばす銘柄が若干量でした。	
ブリ	13.3	24.8 (54%)	13.1 (101%)		
サワラ	3.3	6.6 (50%)	3.2 (104%)		
タイ類	1.9	2.9 (68%)	3.8 (52%)		
メバル類(もいお)	1.3	1.6 (84%)	2.5 (54%)		
スズキ	0.8	0.9 (86%)	3.7 (21%)	<サワラ> さごし銘柄が9割以上, さわら銘柄が若干量でした。	
アマダイ(ぐじ)	0.7	1.8 (37%)	2.1 (31%)		
ヒラメ	0.1	0.1 -	0.1 -		
カレイ類	0.1	0.1 -	0.3 -		
メダイ(たいしょううお)	0.1	0.0 -	0.2 -		
その他	2.7	4.1 (64%)	5.2 (51%)		
合計	38.1	54.8 (69%)	54.3 (70%)		

平年は過去10年平均

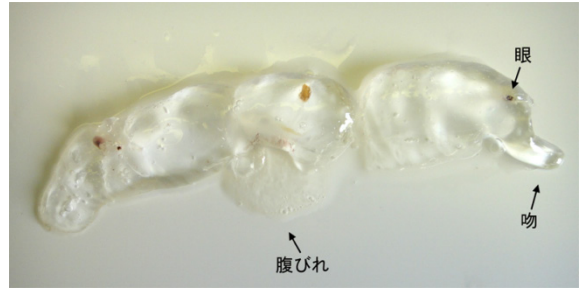
## 【トピック ～ゾウクラゲ～】

6月初旬、舞鶴市野原地区の漁業者さんが冠島付近で作業中に全長約15cmの不思議な生物を採集しました。

その正体はゾウクラゲの仲間、クラゲと名がついていますが、分類学上は巻貝の仲間です。

日本海で発見されるのは珍しいことですが、京都大学舞鶴実験所の上野正博先生によると、平成9年の初夏に対馬海峡から能登にかけて多く出現したそうです。この年にはゾウクラゲの好物とされるサルパの出現も多かったようです。

今回のゾウクラゲも、サルパと共に対馬暖流によって丹後の海に流れ着いたのかもしれませんが。



採集されたゾウクラゲの仲間。象の鼻のような吻が特徴です。通常、腹びれを上にして仰向けの状態で泳ぎます。